ICOM

仕様変更のご案内

VHF/UHF DIGITAL TRANSCEIVER

ID-800
ID-800D

この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、ID-800/ID-800Dをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

まことに勝手ではございますが、DV(デジタル音声)モードでの操作、機能などについて、一部の仕様を本書の内容に変更しております。

つきましては、取扱説明書の22ページ、30～36ページ、37ページ、38ページ、41～48ページ、108ページを本書(「仕様変更のご案内」)の内容に読み替えていただきますようお願い申し上げます。

もくじ

1. DV(デジタル音声)モードの操作 ―― 1
■自局と相手局のコールサインの登録 …… 1
◇自局のコールサインを登録する …… 1
◇相手局のコールサインを登録する …… 4
■DV(デジタル音声)モードの運用 …… 6
◇相手局を指定して交信する場合 …… 7
◇CQを出して交信する場合 …… 7
■D-STAR®システムについて …… 8
■デジタルレピータの運用 …… 9
◇レピータのコールサインを登録する …… 9
◇同じゾーンのレピータを運用する場合 …… 10
◇異なるゾーンのレピータを運用する場合 …… 12
■受信したコールサインを確認する …… 14
◇受信履歴項目を指定して確認する …… 14
◇相手局のコールサインだけを確認する …… 14
◇受信履歴の内容を設定して応答するには …… 15
■コールサインのコピーのしかた …… 16
◇コールサインメモリーの内容をコピーする …… 16
◇一時的に設定しているコールサインを
コールサインメモリーにコピーする …… 17
■メッセージ機能の使いかた …… 18
■BK(割り込み)通信の運用 …… 20
2. その他の変更について ―― 21
■チューニングステップについて …… 21
■セットモードの解除方法について …… 21
■ファンクション機能(HM-133)について …… 21

D-STARは、社団法人日本アマチュア無線連盟の登録商標です。

■ 自局と相手局のコールサインの登録

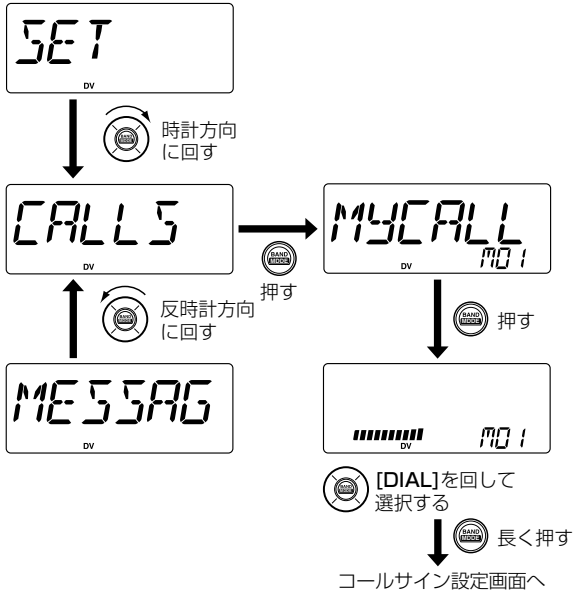
DV(デジタル音声)モードを運用するには、自局と相手局のコールサインを登録する必要があります。

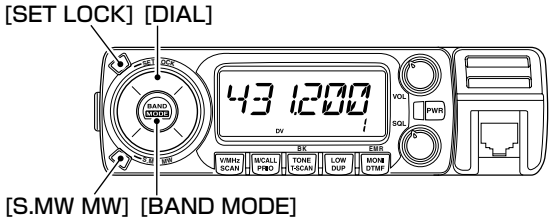
◇ 自局のコールサインを登録する

① [SET LOCK]を短く押して、セットモードにします。
② [DIAL]を回して、「CALLS」を選択します。
③ [SET LOCK]または[S.MW MW]を短く押して、「MyCALL」を選択します。
- 押すごとに、「MyCALL」⇔「UrCALL」⇔「RPT1 C」⇔「RPT2 C」⇔「RXCALL」⇔「RXRPT 1」⇔「RXRPT 2」と表示が切り替わります。

④ [BAND MODE]を押すと、コールサインメモリー番号(M01～M06)の選択状態になります。
⑤ [DIAL]を回して、コールサインメモリー番号(M01～M06)を選択します。

☞次ページへつづく





1 DV(デジタル音声)モードの操作

■自局と相手局のコールサインの登録 (つづき)

⑥ [BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、コールサイン入力状態となり、1ケタ目が点滅します。

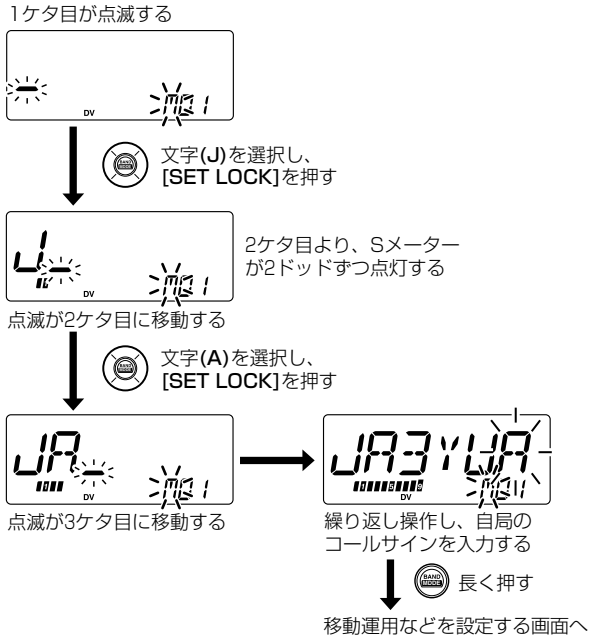
⑦ [DIAL]を回して、文字を選択します。
- _(スペース)、0～9(数字)、A～Z(英文字)、/(記号)が選択できます。

⑧ [SET LOCK]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
- [SET LOCK]を押すとカーソルが右に移動し、[S.MW MW]を押すとカーソルが左に移動します。

⑨ 前記⑦、⑧を繰り返して、自局のコールサインを入力します。
- 2ケタ目より、文字設定するごとにSメーターが2ドットずつ点灯します。

⑩ [BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、自局のコールサインを書き込み、移動運用時のエリア指定、または複数ある無線機の個体番号/記号を付加して通信を区別する場合など、任意の記号、符号など簡易なメモが追加できる画面を表示します。
- コールサインのみで画面を終了するときは、[BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)2回押します。(「MyCALL」表示に戻ります。)
  次に[TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を押すと、「MyCALL」表示を解除して、周波数表示に戻ります。
- 移動運用時のエリア指定などを入力するときは、そのまま次に(⑪)進みます。

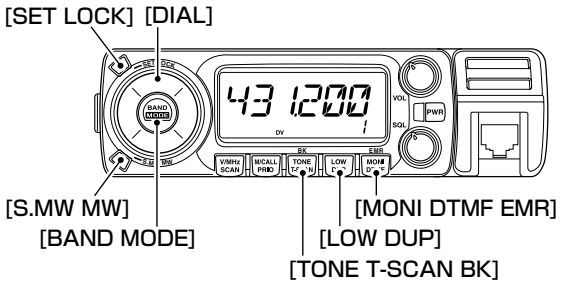
【ご注意】
自局のコールサインを書き込む前に、[V/MHz SCAN]を押すと、それまで入力した文字をクリアして、入力状態に戻ります。(1ケタ目が点滅状態)
登録していたコールサインを編集している場合は、もう一度[V/MHz SCAN]を押すと、編集する前のコールサインを表示します。

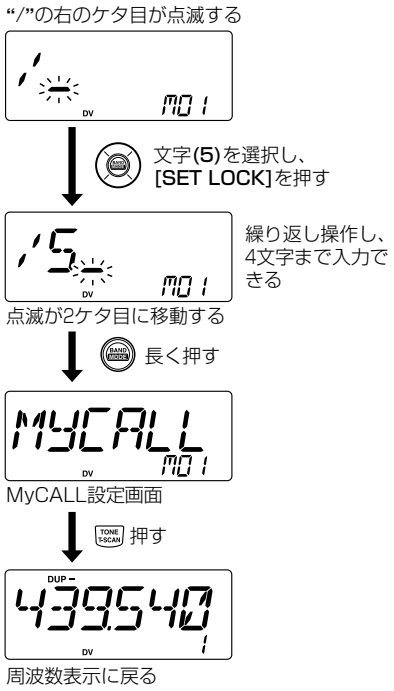


⑪ “/”の右のケタが点滅しています。
⑫ [DIAL]を回して、文字を選択します。
- _(スペース)、0～9(数字)、A～Z(英文字)、/(記号)が選択できます。

⑬ [SET LOCK]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
- [SET LOCK]を押すと、カーソルが右に移動し、[S.MW MW]を押すと、カーソルが左に移動します。

⑭ 前記⑫、⑬を繰り返して、4ケタまでの文字を入力します。
⑮ [BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、設定した文字を書き込み、「MyCALL」表示に戻ります。
⑯ [TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を押すと、「MyCALL」表示を解除して、周波数表示に戻ります。





■自局と相手局のコールサインの登録 (つづき)

◇相手局のコールサインを登録する

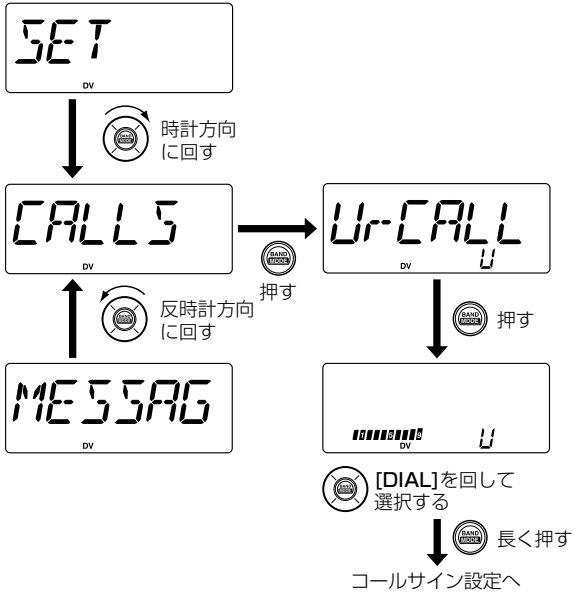
① [SET LOCK]を短く押して、セットモードにします。
② [DIAL]を回して、「CALLS」を選択します。
③ [SET LOCK]または[S.MW MW]を短く押して、「Ur-CALL」を選択します。
- 押すごとに、「MyCALL」⇔「UrCALL」⇔「RPT1 C」⇔「RPT2 C」⇔「RXCALL」⇔「RXRPT 1」⇔「RXRPT 2」と表示が切り替わります。

④ [BAND MODE]を押すと、コールサインメモリー番号の選択状態になります。(**"U"**表示が点灯)
⑤ [DIAL]を回して、コールサインメモリー番号(U01～U99)を選択します。
- **"U"**表示が点滅します。

⑥ [BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、コールサイン入力状態となり、1ケタ目が点滅します。
- コールサインメモリー番号**"U - -"**には、**"CQCQCQ"**を登録しています。

⑦ [DIAL]を回して、文字を選択します。
- _(スペース)、0～9(数字)、A～Z(英文字)、/(記号)が選択できます。
- [V/MHz SCAN]を押すごとに、**"CQCQCQ"**⇒**"/"**⇒**クリア**(1ケタ目が点滅状態)⇒変更前の内容⇒**"CQCQCQ"**と切り替わります。

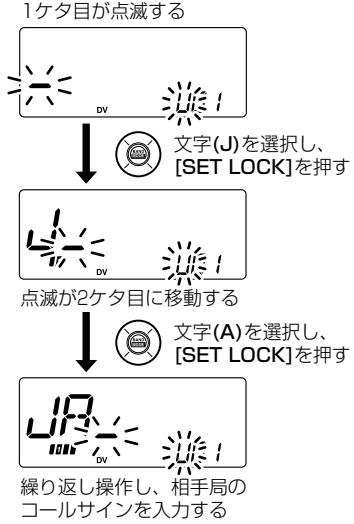
⑧ [SET LOCK]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
- [SET LOCK]を押すと、カーソルが右に移動し、[S.MW MW]を押すと、カーソルが左に移動します。

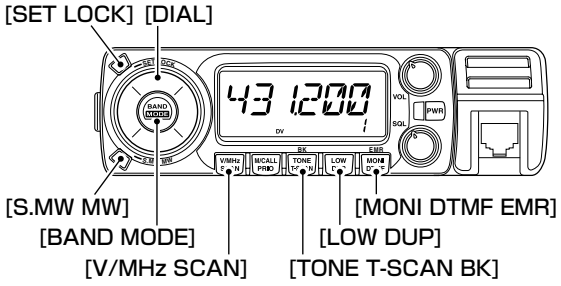


⑨前記⑦、⑧を繰り返して、相手局のコールサインを入力します。
- コールサインは8文字まで入力できます。

⑩[BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、相手局のコールサインを書き込み、「UrCALL」表示に戻ります。

⑪[TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を押すと、「UrCALL」表示を解除して、周波数表示に戻ります。

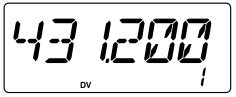




1 DV(デジタル音声)モードの操作

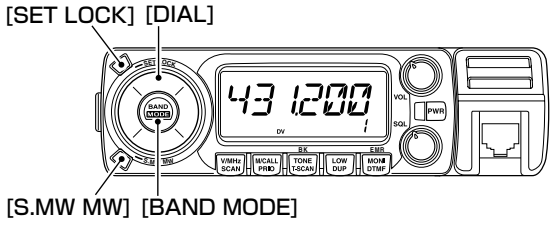
■DV(デジタル音声)モードの運用

①VFOモードにします。(取扱説明書：☞P21)
②アマチュアバンドの**“145MHz帯”**または**“433MHz帯”**を選択します。(取扱説明書：☞P20)
③DV(デジタル音声)モードを選択します。(取扱説明書：☞P18)
④**[DIAL]**を回し、交信する周波数を設定します。



⑤自局のコールサインを設定します。
1 **[SET LOCK]**を短く押して、セットモードにします。
2 **[DIAL]**を回して、**「CALLS」**を選択します。
3 **[SET LOCK]**または**[S.MW MW]**を短く押して、**「My-CALL」**表示を選択します。
4 **[BAND MODE]**を押すと、コールサインメモリー番号(M01～M06)の選択状態になります。(**“M”**表示が点灯)
5 **[DIAL]**を回して、登録されているコールサイン(M01～M06)を選択します。(**“M”**表示が点滅)
・自局のコールサインの登録については、本書の1～3ページをご覧ください。
6 **[SET LOCK]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、コールサインを設定して、**“M”**表示が点灯します。
7 **[TONE T-SCAN BK]**、**[LOW DUP]**、**[MONI DTMF EMR]**を押すと、**「MyCALL」**表示を解除して、周波数表示に戻ります。

⑥次ページの**「◇CQを出して交信する場合」**または**「◇相手局を指定して交信する場合」**を参照し、相手局のコールサインを設定します。
⑦送信するときは、マイクロホンの**[PTT]**スイッチを押しながら、マイク部に向かって話します。(**TX** 表示点灯)
・マイクロホンは、口元から約5cm離し、普通の大きさの声で話します。
⑧**[PTT]**スイッチを離すと、受信状態に戻ります。



《ご参考》
デジタルモニターについて
DVモードで交信中に、Sメーターが振れているのに相手局の音声が聞こえないときは、FM局と混信していることがあります。
このようなときは、セットモードの**「デジタルモニター」**の設定を**“ANALOG”**にセットしておくと、信号がすばやく確認できます。(取扱説明書：☞P79)

◇ 相手局を指定して交信する場合

① [SET LOCK]を短く押して、セットモードにします。
② [DIAL]を回して、「CALLS」を選択します。
③ [SET LOCK]または[S.MW MW]を短く押して、「Ur-CALL」を選択します。
- 押すごとに、「MyCALL」⇔「UrCALL」⇔「RPT1 C」⇔「RPT2 C」⇔「RXCALL」⇔「RXRPT 1」⇔「RXRPT 2」と表示が切り替わります。

④ [DIAL]を回し、相手局を登録しているコールサインメモリー番号(U01～U99)を選択します。
- 登録しているコールサインを約1秒表示して、「Ur-CALL」表示に戻ります。
- 相手局の登録については、本書の4、5ページを参照してください。

⑤ [SET LOCK]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、選択したコールサインを設定します。
- コールサインを設定すると、番号表示が消えて"U"表示だけが点灯します。
- 設定したコールサインは[M/CALL PRIO]を押すと確認できます。

相手局のコールサインを選択する("U"表示が点滅)　設定すると"U"表示だけが点灯する

⑥ [TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を押すと、「UrCALL」表示を解除して、周波数表示に戻ります。

◇ CQを出して交信する場合

① [SET LOCK]を短く押して、セットモードにします。
② [DIAL]を回して、「CALLS」を選択します。
③ [SET LOCK]または[S.MW MW]を短く押して、「Ur-CALL」を選択します。
- 押すごとに、「MyCALL」⇔「UrCALL」⇔「RPT1 C」⇔「RPT2 C」⇔「RXCALL」⇔「RXRPT 1」⇔「RXRPT 2」と表示が切り替わります。

④ [DIAL]を回し、CQを登録しているコールサインメモリー番号(U - -)を選択します。
⑤ [SET LOCK]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、CQを設定します。

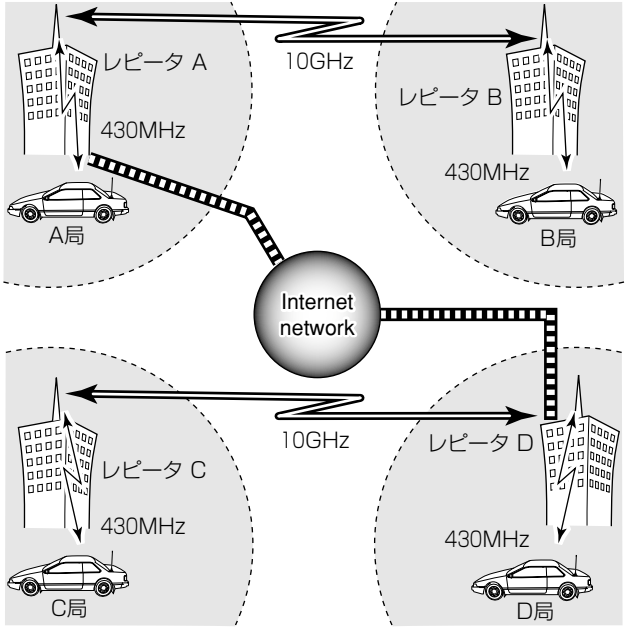
CQを選択する("U"表示が点滅)　設定すると"U"表示だけが点灯する

⑥ [TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を押すと、「UrCALL」表示を解除して、周波数表示に戻ります。

1　DV(デジタル音声)モードの操作

■ D-STAR®システムについて

- D-STAR®システムは4.8kbpsのデジタル音声通信が運用できます。
- D-STAR®システムのレピータを起動するには、自局/相手局/RPT1(送り元中継局)/RPT2(送り先中継局)のコールサインの設定が必要です。
- **デジタル音声通信**は、従来のFMと同様にデュプレックス方式で中継します。
- アップリンクとダウンリンクを430MHz帯、レピータ同士を10GHz帯の周波数でリンクしています。
- デジタルレピータへの連続送信を10分に制限しています。
  連続送信が制限時間の約30秒前になると、ビープ音(ピー)が鳴り、送信を停止する前にビープ音(ピーピーピー)を鳴らして警告します。
- ゲートウェイ局をRPT2(送り先中継局)に設定すると、インターネット回線網を利用した通信が可能になります。



《 重 要 》
インターネット回線網を利用した通信(ゲートウェイ通信)を運用するには、コールサインを社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)に登録していただく必要があります。コールサインの登録は、社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)ホームページで受け付けしています。
JARLホームページ　　http://www.jarl.or.jp

【ご注意】
DV(デジタル音声)モードでレピータを運用するときは、レピータからの電波が停止してから、送信するようにしてください。
レピータが受信状態に戻る前に送信すると、正常に通信できなくなることがあります。

■ デジタルレピータの運用

◇ レピータのコールサインを登録する

① [SET LOCK]を短く押して、セットモードにします。
② [DIAL]を回して、「CALLS」を選択します。
③ [SET LOCK]または[S.MW MW]を短く押して、「RPT1 C」(送り元中継局)または「RPT2 C」(送り先中継局)を選択します。
- 押すごとに、「RPT1 C」⇔「RPT2 C」⇔「RXCALL」⇔「RXRPT 1」⇔「RXRPT 2」⇔「MyCALL」⇔「UrCALL」と表示が切り替わります。

④ [BAND MODE]を押すと、コールサインメモリー番号(r01～r54、r - -)の選択状態になります。
⑤ [DIAL]を回して、コールサインメモリー番号(r01～r54)を選択します。
⑥ [BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、コールサイン入力状態となり、1ケタ目が点滅します。
⑦ [DIAL]を回して、文字を選択します。
- _(スペース)、0～9(数字)、A～Z(英文字)、/(記号)が選択できます。
- [V/MHz SCAN]を押すごとに、変更前の内容⇒**クリア**(1ケタ目が点滅状態)⇒変更前の内容と切り替わります。

⑧ [SET LOCK]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
- [SET LOCK]を押すと、カーソルが右に移動し、[S.MW MW]を押すと、カーソルが左に移動します。

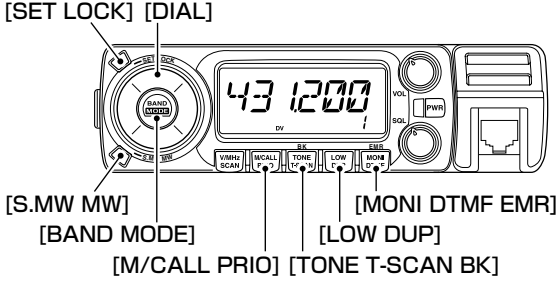
⑨ 前記⑦、⑧を繰り返して、コールサインを入力します。
⑩ 入力したコールサインの中継局がゲートウェイ局の場合で、インターネット回線網を経由して別のゾーンと通信するように登録するときは、[M/CALL PRIO]を短く押してコールサインの末尾(8ケタ目)に"G(ゲートウェイ)"を登録します。

G(ゲートウェイ) の設定例

[M/CALL PRIO]を短く押すと、G(ゲートウェイ)を設定する

※図の表示は、仮設定例です。

⑪ [BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、コールサインを書き込み、「RPT1 C」または「RPT2 C」表示に戻ります。
⑫ [TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を短く押すと、「RPT1 C」または「RPT2 C」表示を解除して、周波数表示に戻ります。



1 DV(デジタル音声)モードの操作

■デジタルレピータの運用(つづき)

DV(デジタル音声)モードでレピータを運用するには、自局と相手局に加えて、送り元中継局、送り先中継局のコールサインを設定する必要があります。

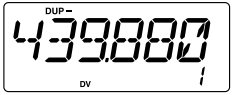
◇同じゾーンのレピータを運用する場合

①VFOモードにします。(取扱説明書：☞P21)

②アマチュアバンドの**“433MHz帯”**を選択します。(取扱説明書：☞P20)

③DV(デジタル音声)モードを選択します。(取扱説明書：☞P18)

④**[DIAL]**を回し、交信する周波数を設定します。
439.000MHz～440.000MHzに合わせます。
- **“DUP −”**と**“T”**を表示して、マイナスシフトとオフセット周波数(5.000MHz/初期設定値)が自動的に設定されます。



⑤自局のコールサインを設定します。(本書：☞P6)
- 自局のコールサインの登録については、本書の1～3ページをご覧ください。

⑥相手局のコールサインを設定します。(本書：☞P7)
- 相手局のコールサインの登録については、本書の4、5ページをご覧ください。

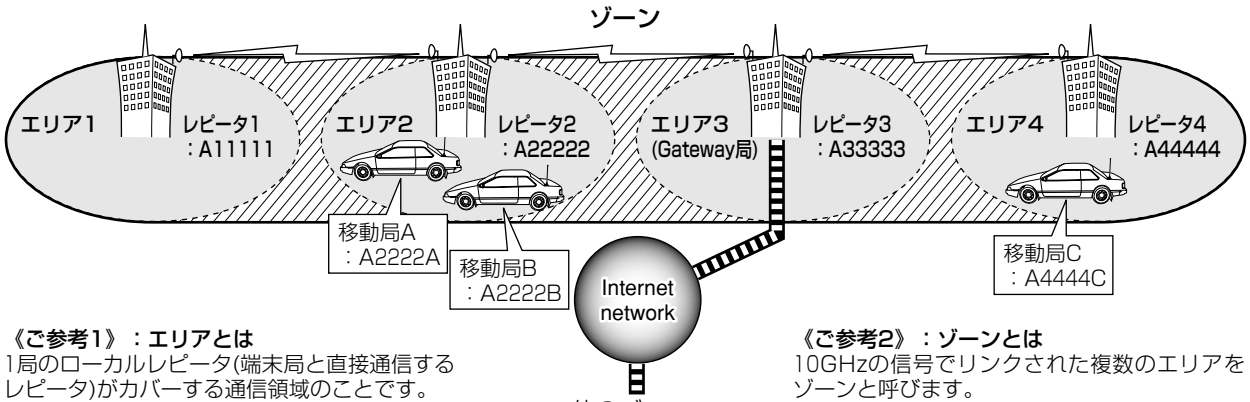
⑦運用するレピータのコールサインを設定します。
1 **[SET LOCK]**を短く押して、セットモードにします。
2 **[DIAL]**を回して、**「CALLS」**を選択します。
3 **[SET LOCK]**または**[S.MW MW]**を短く押して、**「RPT1 C」**(送り元中継局)を選択します。
4 **[BAND MODE]**を押すと、コールサインメモリー番号(r01～r54)の選択状態になります。
5 **[DIAL]**を回して、最寄りのエリアレピータのコールサインを選択します。
- レピータのコールサインの登録については、本書の9ページをご覧ください。

6 **[SET LOCK]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、RPT1 C(送り元中継局)のコールサインを設定します。
7 **[BAND MODE]**を短く押して、**「RPT1 C」**表示に戻します。
8 **[SET LOCK]**を短く押して、**「RPT2 C」**(送り先中継局)を選択します。
9 前記4～6を繰り返して、送り先中継局(RPT2)のコールサインを設定してください。
- 送り先中継局を運用しないときは、**“r - - (NOTUSE)”**を選択してください。

10 **[TONE T-SCAN BK]**、**[LOW DUP]**、**[MONI DTMF EMR]**を短く押して、周波数表示に戻します。

⑧マイクロホンの**[PTT]**スイッチを押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。
- マイクロホンは、口元から約5cm離し、普通の大きさの声で話します。
- レピータからの信号を受信していないことを確認してから送信してください。

● 設定例



《ご参考1》：エリアとは
1局のローカルレピータ(端末局と直接通信するレピータ)がカバーする通信領域のことです。
D-STARでは、ローカルレピータのことをエリアレピータとも呼びます。

《ご参考2》：ゾーンとは
10GHzの信号でリンクされた複数のエリアをゾーンと呼びます。
上図では、エリア1～4がゾーンになります。

◆移動局Aが移動局Bを呼び出す場合の設定
MyCall　：A2222A
UrCall　：A2222B
RPT1 C：A22222
RPT2 C：NOTUSE

◆移動局Aがエリア1にCQを出す場合の設定
MyCall　：A2222A
UrCall　：CQCQCQ
RPT1 C：A22222
RPT2 C：A11111

◆移動局Aが移動局Cを呼び出す場合の設定
MyCall　：A2222A
UrCall　：A4444C
RPT1 C：A22222
RPT2 C：A44444

1 DV(デジタル音声)モードの操作

◇ 異なるゾーンのレピータを運用する場合

①「◇同じゾーンのレピータを運用する場合」の①～⑤を操作します。(本書：☞P10)

②相手局のコールサインを設定します。(本書：☞P7)

- **CQを出す場合：**
  「UrCall」設定項目で、CQを出したいエリアのレピータのコールサイン(r01～r54)を設定してください。
  - CQ符号となる"/"が、コールサインの先頭に自動的に付与されます。

③運用するレピータのコールサインを設定します。

1 [SET LOCK]を短く押して、セットモードにします。
2 [DIAL]を回して、「CALLS」を選択します。
3 [SET LOCK]または[S.MW MW]を短く押して、「RPT1 C」(送り元中継局)を選択します。
4 [BAND MODE]を押すと、コールサインメモリー番号(r01～r54)の選択状態になります。
5 [DIAL]を回して、最寄りのエリアレピータのコールサインを選択します。
  - レピータのコールサインの登録につては、本書の9ページをご覧ください。
6 [SET LOCK]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、RPT1 C(送り元中継局)のコールサインを設定します。
7 [BAND MODE]を短く押して、「RPT1 C」表示に戻します。
8 [SET LOCK]を短く押して、「RPT2 C」(送り先中継局)を選択します。
9 前記4～6を繰り返して、末尾に"G(ゲートウェイ)"を登録しているゲートウェイ局のコールサインを送り先中継局(RPT2)に設定してください。
10 [TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を短く押して、周波数表示に戻します。

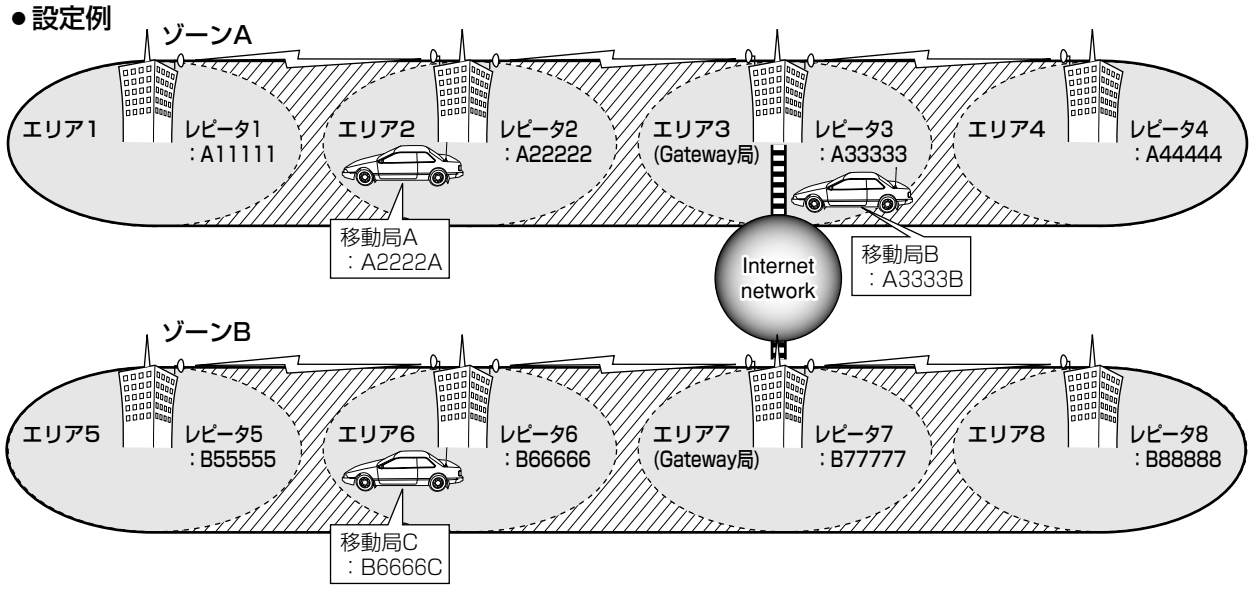
④マイクロホンの[PTT]スイッチを押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。
- マイクロホンは、口元から約5cm離し、普通の大きさの声で話します。
- レピータからの信号を受信していないことを確認してから送信してください。

《 重 要 》

末尾に"G(ゲートウェイ)"を登録しているゲートウェイ局のコールサインは、必ず送り先中継局(RPT2)に設定してください。

なお、最寄りのエリアレピータがゲートウェイ局の場合は、送り元中継局(RPT1)と送り先中継局(RPT2)には同じエリアレピータの"G(ゲートウェイ)"を登録していないコールサインを送り元中継局(RPT1)に、"G(ゲートウェイ)"を登録しているコールサインを送り先中継局(RPT2)に設定してください。

●設定例



◆移動局Aが移動局Cを呼び出す場合の設定

MyCall　：A2222A
UrCall　：B6666C
RPT1 C：A22222
RPT2 C：A33333 G

◆移動局Aがエリア8にCQを出す場合の設定

MyCall　：A2222A
UrCall　：/B88888
RPT1 C：A22222
RPT2 C：A33333 G

◆移動局Bが移動局Cを呼び出す場合の設定

MyCall　：A3333B
UrCall　：B6666C
RPT1 C：A33333
RPT2 C：A33333 G

■ 受信したコールサインを確認する

DV(デジタル音声)モードの信号を受信した場合、その信号を送信した局や使用されたレピータのコールサインを以下の要領で確認できます。

◇ 受信履歴項目を指定して確認する

① [SET LOCK]を短く押して、セットモードにします。
② [DIAL]を回して、「CALLS」を選択します。
③ [SET LOCK]または[S.MW MW]を短く押して、受信履歴項目(「RXCALL」、「RXRPT 1」、「RXRPT 2」)を選択します。
- 押すごとに、「MyCALL」⇔「UrCALL」⇔「RPT1 C」⇔「RPT2 C」⇔「RXCALL」⇔「RXRPT 1」⇔「RXRPT 2」⇔「MyCALL」と項目が切り替わります。

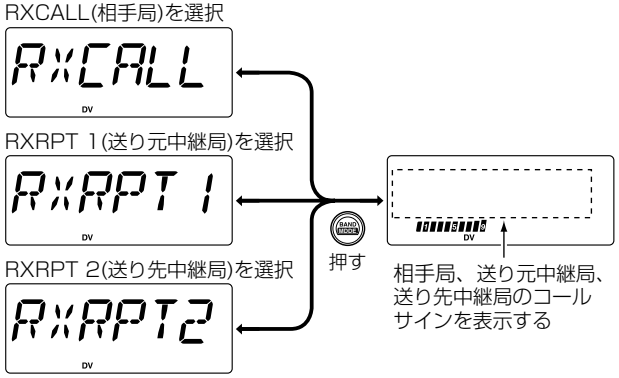
項目
- RXCALL ：相手局のコールサインを表示します。
- RXRPT 1 ：送り元中継局のコールサインを表示します。
- RXRPT 2 ：送り先中継局のコールサインを表示します。

④ [BAND MODE]を押すと、選択した受信履歴項目のコールサインを表示します。
- [SET LOCK]を押すと後半6文字、[S.MW MW]を押すと前半6文字を表示します。
- 手順③で「RXCALL」を選択したときは、再度[BAND MODE]を押すと、エリア指定などの"/"のあとにつづく内容を表示します。

⑤ 再度[BAND MODE]を押すと、手順③で選択した表示に戻ります。
⑥ [TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を短く押すと、周波数表示に戻ります。

◇ 相手局のコールサインだけを確認する

➥ DV(デジタル音声)モードで信号を受信したあと、[TONE T-SCAN BK]を長く(ピッピッと鳴るまで)押します。
- 「RXCALL」に記憶された相手局コールサインの上6ケタを表示します。
- ピッピッと鳴ったあとも[TONE T-SCAN BK]を押しつづけると、受信履歴に記憶されたコールサインを設定(次ページ参照)、さらに押しつづけるとBK(割り込み)通信(本書：P20)を設定しますのでご注意ください。



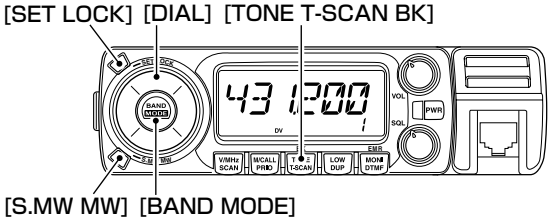
【ご注意】
一度、本機の電源を"OFF"にすると、「RXCALL」、「RXRPT 1」、「RXRPT 2」に記憶したコールサインは消去されます。
また、新しい信号を受信すると、以前に受信した内容を消去して内容を更新します。

◇受信履歴の内容を設定して応答するには

受信履歴に記憶されたコールサインをワンタッチで本機に設定し、素早く応答できます。

①DV(デジタル音声)モードで信号を受信したあと、**[TONE T-SCAN BK]**を長く(ピッピッ、ピーと鳴るまで)押します。または、左記の**「◇受信履歴項目を指定して確認する」**で、コールサインを表示させている状態で**[SET LOCK]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
- 自局のコールサインは、あらかじめ設定しておいてください。(本書：☞P6)
- **「RXCALL」**に記憶された相手局のコールサインを**「UrCALL」**、**「RXRPT1」**に記憶されたレピータのコールサインを**「RPT2 C」**に、**「RXRPT2」**に記憶されたレピータのコールサインを**「RPT1 C」**に設定します。

②マイクロホンの**[PTT]**スイッチを押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。



【ご注意】
左記の操作で設定したコールサインは、一時的な運用だけに設定されます。
したがって、別のコールサインを設定すると、その内容は消去されます。
※コールサインメモリーには登録されません。

左記の操作で設定したコールサインをコールサインメモリーに登録するには、「■コールサインのコピーのしかた」(次ページ)をご覧ください。

また、コールサインが正しく受信されなかったときは、「NoCALL」と表示され、コールサインを設定できません。

《ご参考》
自局のコールサインを指定した信号を受信した場合は、下記の機能を設定しておくことで、相手局および使用されたレピータのコールサインを自動で設定します。

- セットモードの**「着信コールサイン自動登録の設定」**(取扱説明書：☞P78)をONに設定すると、**「RXCALL」**に記憶したコールサインを自動で**「UrCALL」**に設定します。
- セットモードの**「着信レピータコールサイン自動登録の設定」**(取扱説明書：☞P79)をONに設定すると、**「RXRPT 1」**、**「RXRPT 2」**に記憶したレピータコールサインを自動で**「RPT2 C」**、**「RPT1 C」**に設定します。

■ コールサインのコピーのしかた

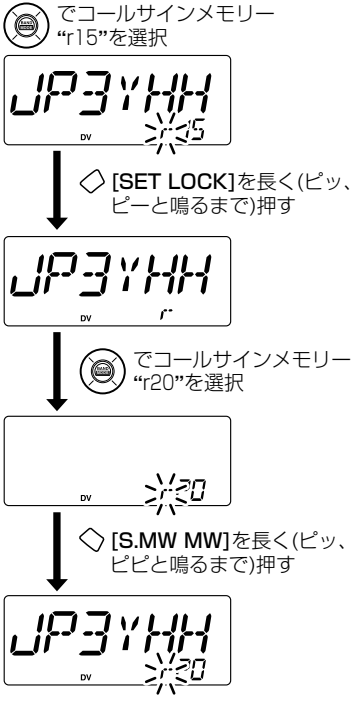
◇ コールサインメモリーの内容をコピーする

すでに登録しているコールサインに移動運用時のエリア指定や、複数ある無線機の個体番号/記号を付加したり、コールサインの一部を編集するときなどに便利な機能です。

① [V/MHz SCAN]を短く押して、VFOモードにします。
② [SET LOCK]を短く押して、セットモードにします。
③ [DIAL]を回して、「CALLS」を選択します。
④ [SET LOCK]または[S.MW MW]を短く押して、「MyCALL」、「UrCALL」、「RPT1 C」または「RPT2 C」を選択します。
- 押すごとに、「MyCALL」⇔「UrCALL」⇔「RPT1 C」⇔「RPT2 C」⇔「RXCALL」⇔「RXRPT 1」⇔「RXRPT 2」⇔「MyCALL」と表示が切り替わります。

⑤ [DIAL]を回し、コピーしたいコールサインメモリー番号(M01～M06、U01～U99、r01～r54)を選択します。
⑥ [SET LOCK]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、選択したコールサインを設定します。
⑦ [DIAL]を回し、コピー先のコールサインメモリー番号(M01～M06、U01～U99、r01～r54)を選択します。
⑧ [S.MW MW]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押して、手順⑤で設定したコールサインを手順⑥で選択したコールサインメモリーにコピーします。
⑨「■自局と相手局のコールサインを登録する」(本書：☞P1～5)または「◇レピータのコールサインを登録する」(本書：☞P9)の手順にしたがって、コピーしたコールサインを編集してください。

《例》コールサインメモリー“r15”を“r20”にコピーする



◇一時的に設定しているコールサインをコールサインメモリーにコピーする

周波数と各種設定をM-CHに書き込むときに、受信履歴から設定されたコールサインや、自局を指定した信号を受信して自動設定されたコールサイン(相手局、レピータ)を各コールサインメモリーに同時に登録する方法です。

①信号を受信したあと、**「◇受信履歴の内容を設定して応答するには」**(本書：☞P15)を操作して、コールサインを設定します。
- **「着信コールサイン自動登録の設定」**(取扱説明書：☞P78)、**「着信レピータコールサイン自動登録の設定」**(取扱説明書：☞P79)を**"ON"**に設定している場合で、自局のコールサインを指定した呼び出しを受信したときは、受信した相手局コールサインを自動で設定します。

②メモリーモードで受信履歴のコールサインを設定したときは、**「◇M-CHの内容をVFOに転送して使うには」**(取扱説明書：☞P55)の手順にしたがってM-CHの内容をVFOに書き込んでください。

③VFOモードで**[S.MW MW]**を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。

④**[DIAL]**を回してM-CHを選択します。

⑤**[S.MW MW]**を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、周波数と各種設定を書き込むと同時に、相手局のコールサインをU01～U99、レピータのコールサインをr01～r54のブランクチャンネルに登録します。

【ご注意】
すべてのチャンネルにコールサインが登録されているときは、以下を表示してコールサインを登録できません。

"UrCALL"に空きがないとき

"RPT1/2 C"に空きがないとき

"UrCALL"、"RPT1/2 C"
の両方に空きがないとき

《ご参考》
左記の手順③で、**[S.MW MW]**を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、表示しているM-CHに周波数、各種設定を上書きします。(手順④、⑤を省略できます)

ただし、この操作でコールサインを登録すると、上書きする前に設定されていたコールサインの組み合わせは消去されますのでご注意ください。
※コールサインメモリーに登録されている内容は保持されます。

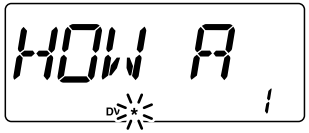
■ メッセージ機能の使いかた

DV(デジタル音声)モードで音声通信しながら、同時に最大20文字のテキストメッセージでの通信ができます。

①「■DV(デジタル音声)モードの運用」(本書：☞P6、7)、または「■デジタルレピータの運用」(本書：☞P9～13)を参照して、運用周波数、各コールサインなどを設定します。
② [SET LOCK]を短く押して、セットモードにします。
③ [DIAL]を回して、「MESSAG」を選択します。
④ [SET LOCK]または[S.MW MW]を短く押して、「TXM-C」(送信メッセージ)設定項目を選択します。
・押すごとに、「TXM-OF」⇔「TXM-C」⇔「RX-MSG」⇔「TXM-OF」と設定項目が切り替わります。
⑤ [BAND MODE]を押すと、選択した登録番号が点滅します。
⑥ [DIAL]を回し、登録番号(C1～C6)を選択します。
・このとき、すでにメッセージを登録している番号を選択すると、その内容を表示します。
⑦ [BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、1ケタ目が点滅します。
⑧ [DIAL]を回して、文字を選択します。
⑨ [SET LOCK]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
・[SET LOCK]を押すと、カーソルが右に移動し、[S.MW MW]を押すと、カーソルが左に移動します。
⑩ 前記⑧～⑨を繰り返し、メッセージを入力します。

⑪ [BAND MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、メッセージを書き込み、「TXM-C」(送信メッセージ)設定項目に戻ります。
⑫ [SET LOCK]または[S.MW MW]を押して、「TXM-OF」(メッセージ送信設定)項目を選択します。
⑬ [DIAL]を回し、「TXM-ON」にします。

⑭ [M/CALL PRIO]、[TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を短く押して、周波数表示に戻ります。
⑮ マイクの[PTT]スイッチを押すと、設定したメッセージを送信します。
・会話しながらメッセージを送信できます。
・[PTT]を押すたびメッセージを送信します。また、連続送信中は30秒に1回、自動的にメッセージを送信します。
⑯ マイクの[PTT]スイッチを離して、受信状態にします。
相手局からメッセージを受信すると、メッセージ受信インジケーター(“★”)が点滅します。

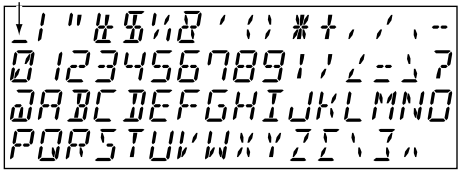


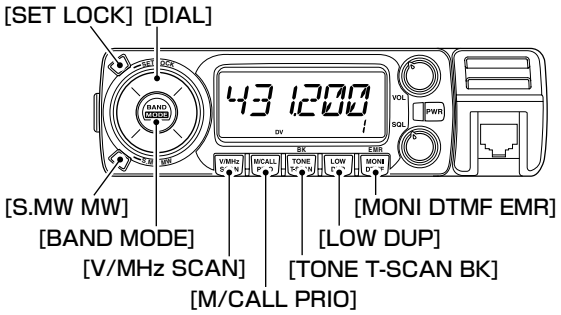
相手局のコールサインを表示したあとメッセージを表示する

⑰受信したメッセージは自動でスクロールして表示します。
コールサインとメッセージを受信したときは、コールサイン、メッセージと自動でスクロールして表示します。
- ただし、セットモードの**「着信メッセージ自動表示の設定」**項目(取扱説明書：☞P80)、**「着信コールサイン自動表示の設定」**項目(取扱説明書：☞P79)で着信メッセージまたはコールサインを表示しないように設定できます。

● 文字入力一覧表

スペース





【ご注意】
本機では、メッセージを1件だけ記憶できます。
新しいメッセージを受信すると、1件目のメッセージを表示できません。
また、一度、本体の電源を"OFF"にすると、受信したメッセージは消去されます。

●受信したメッセージを見るには
①左記の手順④で**「RX-MSG」**を選択します。
②**[BAND MODE]**を押すと、記憶しているメッセージを表示します。
- **[SET LOCK]**を押すと左に1文字、**[S.MW MW]**を押すと右に1文字スクロールします。

③**[BAND MODE]**を押して、**「RX-MSG」**表示に戻します。
④**[DIAL]**を回して、**「RX-CAL」**表示にします。
⑤**[BAND MODE]**を押すと、メッセージを送ってきた局のコールサインを表示します。
- **[SET LOCK]**を押すと後半6文字、**[S.MW MW]**を押すと前半6文字を表示します。
- 再度**[BAND MODE]**を押すと、エリア指定などの"/"につづく内容を表示します。

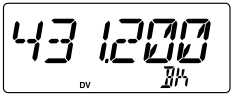
⑥**[BAND MODE]**を押して**「RX-CAL」**表示に戻します。
⑦**[M/CALL PRIO]**、**[TONE T-SCAN BK]**、**[LOW DUP]**、**[MONI DTMF EMR]**を短く押して、周波数表示に戻ります。

1 DV(デジタル音声)モードの操作

■ BK(割り込み)通信の運用

BK(割り込み)通信は、DV(デジタル音声)モードで動作します。

①DV(デジタル音声)モードで信号を受信したあと、**[TONE T-SCAN BK]**を長く(ピッ、ピッ、ピー、ピーと鳴るまで)押します。
- ディスプレイに**"BK"**表示が点灯します。

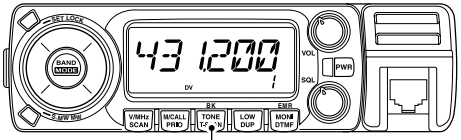


- 自局のコールサインは、あらかじめ設定しておいてください。(本書：☞P6)
- 相手局のコールサインおよび使用されているレピータのコールサインは自動的に設定されます。

注意：コールサインが正しく受信されなかったときは、「NoCALL」を表示してコールサインを設定できません。

②両局が受信状態のときに、マイクロホンの**[PTT]**スイッチを押して割り込み通信(ブレークインコール)をします。

③**[TONE T-SCAN BK]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、割り込み通信を解除します。

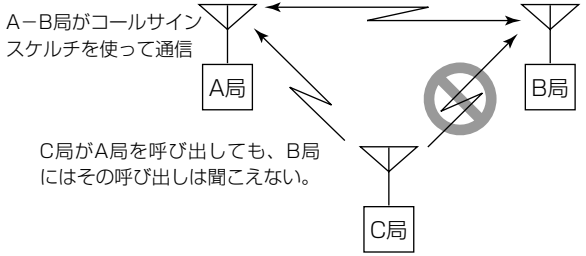


[TONE T-SCAN BK]

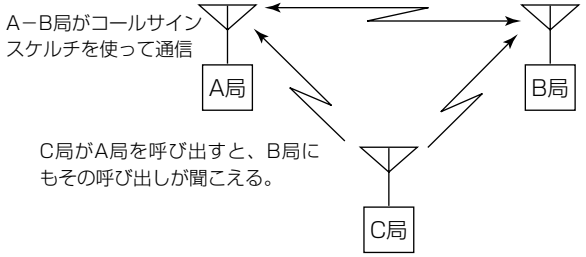
●BK(割り込み)通信の使いかた

コールサインスケルチを使用しているときは、自局宛ではない信号を受信してもスケルチは開きません。
しかし、BK(割り込み)通信を使用した**"BK ON"**の信号を受信した場合は、他局宛の信号であってもスケルチは開きます。

●C局が"BK OFF"でA局を呼び出す場合



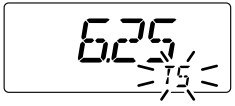
●C局が"BK ON"でA局を呼び出す場合



■チューニングステップについて

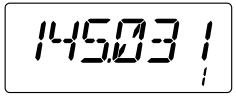
これまでのチューニングステップ(5kHz※、10kHz、12.5kHz、15kHz※、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、200kHz)に、**6.25kHz**※を追加しました。
これと同時に、セットモードでの項目表示を下図のように変更しています。

※900Mバンドでは選択できません。



ご注意：チューニングステップを6.25kHzにした場合、1kHz未満の0.25kHz、0.75kHz表示は省略されます。

145.03125MHzの表示例



■セットモードの解除方法について

[SET LOCK]を短く押してから、[DIAL]で選択していたセットモードからの解除方法が以下の操作に変更されています。

SETの場合　：[V/MHz SCAN]、[M/CALL PRIO]、[TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を押すとセットモードを解除する。(変更なし)

CALLSの場合　：[TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を押すとセットモードを解除する。

MESSAGの場合：[M/CALL PRIO]、[TONE T-SCAN BK]、[LOW DUP]、[MONI DTMF EMR]を押すとセットモードを解除する。

■ファンクション機能(HM-133)について

別売品の多機能マイクロホン(HM-133)で、[FUNC]を押したあとに[F-1]、[F-2]を押すことで、[F-1]、[F-2]キー単独押しでメモリーできる内容に加えて、セットモード、イニシャルセットモードとコールサイン(相手局、RPT1/2)の設定をメモリーすることができます。

- **メモリーのしかた**
  [FUNC]を押してから[F-1]、[F-2]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、設定している内容をメモリーします。

- **呼び出しかた**
  [FUNC]を押してから[F-1]、[F-2]を短く押すと、メモリーしている内容を呼び出します。

※多機能マイクロホン(HM-133)の操作では、[F-1]、[F-2]に記憶させている内容を初期化できませんのでご注意ください。

高品質がテーマです。

A-6393D-2J
Printed in Japan
© 2005 Icom Inc.

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32